

金融クラスターと証券取引所 — 支配から調整・管理へ —

野 末 英 俊

はじめに

国の経済・産業の分析を行うにあたっては、変化しない軸に注目する必要がある。グローバル資本主義の時代において、経済は、証券取引所を軸に展開している。証券取引所は、大企業や新興企業の資金調達を担う。とりわけ、その中心は、ニューヨーク証券取引所である。

1890年頃には、アメリカは世界最大の工業国となり、20世紀初頭には、最大の経済大国として台頭した。ピッツバーグ（鉄鋼）、デトロイト（自動車）、テキサス（石油）などに、産業クラスターが形成されたが、その中心として機能したのは、ニューヨークであった。

1929年11月24日の株価の崩壊に端を発する大恐慌⁽¹⁾は、ニューヨーク証券取引所⁽²⁾の株価の暴落に端を発した。株価の暴落は、生産活動の縮小と企業倒産をもたらす⁽³⁾。近年においても、1985年、日本のバブル経済形成の原因となったプラザ合意は、ニューヨーク・プラザホテルでの会議の結果である。2001年9月11日の同時多発テロでは、世界貿易センターのツインタワービルが標的となった。ツインタワーは、ニューヨークのシンボリック存在であった。周辺には、ニューヨーク証券取引所や金融集積地であるウォール街が位置し、アメ

リカの国力の源泉である経済の中心地は、依然として金融集積地にあるとみなされていることの証左である。2008年9月18日にニューヨークに本社をもつ世界4位の投資銀行であったリーマン・ブラザーズが経営破綻し、世界同時不況（リーマン・ショック）を招いた。リーマン・ブラザーズは、リスクの高いサブプライム・ローンを扱っており、これが経営破綻の原因となった⁽⁴⁾。リーマンの破綻は、大規模な金融危機を引き起こし、アメリカ経済の持続的発展は困難となった。

本稿の目的は、銀行資本⁽⁵⁾およびその集積体である金融クラスターの存在が、産業支配⁽⁶⁾という性格を低下させながらも、依然として、経済の基軸的役割を担い、産業支配から調整・管理へと機能を移行させていることを論証しようとするものである。経営戦略の研究者であるM.E.ポーターは、最初は、企業の競争力の源泉を価値連鎖など、企業内部に求めたが、次第に、企業外部の要因に注目するようになった。ポーターが提示した産業クラスター論⁽⁷⁾は、マーシャルの理論⁽⁸⁾を引き継ぎ、企業の競争力にとって、本拠地の立地が重要であり、企業は、産業クラスター（地域から一国に及ぶ）から、多くの恩恵を受けている。しかし、企業の外部要因には、金融機関の集積地である金融クラスターが重要な役割を担っている。現代の資本主義国においては、国内に金融クラスターが存在することが普通である。

大きな金融クラスターの核には、証券取引所が位置している。証券取引所の起源は、1602年に、オランダ東インド会社が設立したアムステルダム証券取引所であるとされている⁽⁹⁾。証券取引所は、株式・債権の売買・流通の機能を担い、金融クラスターの中心に位置している。

アメリカの経済中心地は、ニューヨークである。現代のアメリカにおいては、ニューヨーク証券取引所が国内経済の中心に位置している。金融クラスターは、産業クラスターの一類型であるが、国内各地に分立する他の産業クラスターを支援する。アメリカでは、その社会構造⁽¹⁰⁾・文化・価値観が、恵まれた自然的条件の潜在力を引き出し、経済発展の要因となった。機能を重視し、装飾を排

するアメリカ的生活様式は、多国籍企業の活動とともに、世界中に受け入れられ、広まった。アメリカの文化や価値観の世界への一般化であるアメリカナイゼーションは、現在まで続く現象である。

国力の持続性は、工業の基盤に依存する。恵まれた立地のみに優位の源泉を依存する通商国家は、長期的には、競争力を維持することが困難であることが多い。国内に付加価値の高い工業が存在することが、その国の経済力と軍事・技術革新の力につながる。しかし、工業のイノベーションを支えているのは、国の金融システムである。企業にとって必要な資金の仲介・供給を行うのは、金融機関の役割である。金融業は、国内産業に対する支援産業として、重要な役割を担っている。金融クラスターは、産業クラスターの一類型であるが、他の産業クラスター内のイノベーションを支援し、国の経済発展に大きな影響を及ぼしている。資本主義の発展と共に、工業の役割が増大した。しかし、工業の発展は、必要な資金の仲介者としての金融機関の役割を増大させた。この結果、20世紀への転換期には、銀行資本の役割が増大した。

アメリカの資本主義の発展の分析を試みる中で、とりわけ注目されるのは、アメリカの投資銀行⁽¹¹⁾の存在である。投資銀行は、イギリスのマーチャント・バンクを起源⁽¹²⁾とし、アメリカで独自に発展した金融機関である。アメリカは、世界の資本主義を先導する役割を担うようになった。20世紀への転換期へのアメリカにおいては、J.P.モルガン商会の主導で、GE (1892)、U.S.スチール (1901)、インターナショナル・ハーベスター (1902) などの巨大企業が成立した⁽¹³⁾。このように、アメリカは、第二次産業革命の推進者であったが、大企業体制の成立には、J.P.モルガン商会などの投資銀行が大きな役割を担った。アメリカにおいては、シリコンバレーのように、各地に産業クラスターが存在し、活発なイノベーションがみられる。しかし、アメリカの経済中心地は、依然として、金融の集積地であるニューヨークであり、ロウマンハuttonの狭い地域に立地する証券取引所と金融機関を軸に、経済が展開している。先進的な資本主義国には、大小の金融クラスターが存在する。大きな金融クラスターは、

国際金融センターとしての性格をもつ。20世紀の二度の世界大戦を経て、資本主義世界を先導してきたのは、アメリカであった。

．アメリカの産業クラスター

「革命」が、「発展」よりも急速な加速度的な変化⁽¹⁴⁾を意味するのであれば、1970年代以降のICTの革新は、まさに、「革命」に値するものであった。M.E.ポーターは、産業クラスター論を展開し、企業の競争力の源泉のより大きな部分として、企業外部の要因を指摘した⁽¹⁵⁾。企業は、クラスターの内部に立地することによって、インフラや情報など、外部からさまざまな恩恵を享受する。ダイヤモンド理論のほとんどが外部要因であり、内部要因は、戦略、組織のみである。企業は、企業外部の立地するクラスターから、多くの利便を得る。

企業の外部要因には、道路、港湾、空港、公共施設、教育機関などのインフラストラクチャーが存在する。アメリカは、大量生産の母国であり、1920年代には、最初に大衆消費社会を実現した。アメリカでは、各地で、特色のある産業クラスターが形成されている。これらの産業クラスターは、少数の要因を核として、徐々に形成される。企業家を育て、企業家の活動を活発化させているのもクラスターの役割である。イノベーションの多くは、特定地域のクラスター内部において創出される。企業は、クラスターの内部に立地することによって、費用・時間の節約、供給・関連産業、ライバル企業の動向や新しいアイデアの情報への接近、人的つながり、情報の交換など、さまざまな利益を享受することができる。産業クラスター内に立地した企業は、インフラや支援産業の存在などの利便によって、取引費用は低下し、情報・人材の獲得が容易である。このような、産業クラスターにおいて、イノベーションが活性化する。

産業クラスター内部では、多様な価値観が融合し、従来とは、まったく新しい知識を生み出すことが、しばしばある。アメリカ企業の競争力は、活発なイノベーションの結果である。アメリカにおいては、技術革新によって、幾度と

なく産業構造の転換が行われ、国の基幹産業が高度化した⁽¹⁶⁾。アメリカにおいては、19世紀半ばの、アメリカにおける鉄道の建設は、地域的な市場を結合し、国内の工業製品の市場の拡大に役立った。アメリカにおける鉄道は、国内市場の統一と、それ自身が、レール（鉄鋼）などの巨大な需要者であり、他の産業の発展や、企業制度の整備に役立ったが、この巨額の資金調達で活躍したのは、まだ、創業間もない国内の投資銀行であった。南北戦争は、前資本主義的性格を払拭し、アメリカにおける純粋な資本主義的発展の基礎をつくりあげた。

1980年代以降、アメリカにおいて、ケインズ主義から新自由主義的政策への転換⁽¹⁷⁾が進展したが、国内において、急速に成長した産業クラスターは、シリコンバレーであった⁽¹⁸⁾。シリコンバレーは、第二次世界大戦前、ヒューレット・パッカード（HP）が設立されたのが起源とされている。この地域には、第二次世界大戦中、軍需産業が発展し、戦後は、半導体産業が成長した。このような、地域における半導体産業の技術蓄積が、インテルによるMPUの開発を可能にした⁽¹⁹⁾。この「マイクロプロセッサ 革命」⁽²⁰⁾は、新たな巨大な個人市場を出現させた。ポーターは、企業の競争力の源泉を、企業の立地に求めた。

しかし、企業にとって必要な「生きた」情報を獲得するためには、企業がクラスターの内に立地していることが望ましい。産業クラスター内に企業が立地することによって、取引の費用・時間は低下し、企業は良質の情報に接近することが可能となる。ここでは、企業にとって有用な情報が交換される。クラスター内の情報はイノベーションを創出する知識に加工される。新たなビジネスモデルが構築され、顧客の支持を得た企業は、発展することになる。クラスター内の有利な条件が、イノベーションを生み出し、アイデアが結合して、新たなイノベーションを生み出す好循環をつくりだす。こうした、クラスターにおいては、スタートアップ企業の起業が活発である。ここで、ICT産業をはじめとする、各地のクラスターは、貨幣の供給（金融）によって支えられている。アメリカの各地の産業クラスターにおける活発なイノベーションを支えている

のは、ニューヨークを中心とする金融クラスターである。

・金融クラスターの役割

1792年、商人たちが設立した取引所が、ニューヨーク証券取引所の起源であったといわれている。他方、北東部のゼネラル・マーチャントは、しばしば金融業に進出した⁽²¹⁾。以後、アメリカ経済の発展とともに、ニューヨーク市マンハッタン地区には、金融業の集積が進展した。19世紀、世界の金融中心地は、イギリスであった⁽²²⁾。

国の工業の発展は、金融クラスター⁽²³⁾の形成を促す。金融クラスター⁽²⁴⁾は、国の交易の中心地や、交易の要衝に形成されることが多い。大きな金融クラスターの内部には、証券取引所⁽²⁵⁾、証券会社・投資銀行、商業銀行、保険会社（生保・損保）などが集積する。国の工業の発展とともに、蓄積された貨幣は、これらの金融クラスター内に集中しはじめる。また、伝統、名声が、クラスター内に立地する金融機関にとって、大きな役割を担うことがある。

これらの産業の成長を背景に、国内の金融クラスターは形成される。資本主義は依然として、貨幣を基軸として展開される体制である。1873-96年の「大不況期」にイギリスは「世界の工場」としての地位を低下させていた⁽²⁶⁾。アメリカは、19世紀後半以降、大企業が成長し、1890年頃には、世界最大の工業国となった。19世紀後半には、アメリカとドイツの工業化が急速に進展した。両国は、20世紀への転換期にかけての、電機・鉄鋼・自動車・石油化学など、第二次産業革命の主導国であった。アメリカの巨大企業は、1890年代以降、ニューヨーク証券取引所で株式・社債を上場し、資金調達を行うようになった⁽²⁷⁾。

20世紀への転換期において、アメリカ経済の中で、重要な役割を担ったのは、J.P.モルガンやクーン・ローブのようなニューヨークに本拠地をおく投資銀行であった。ニューヨークでは、マンハッタン地区のウォール街にニューヨー

ク証券取引所、ニューヨーク連邦準備銀行が位置し、周辺には、巨大な投資銀行、商業銀行が集積している。かつてのニューヨーク銀行資本の特質は産業支配であった。金融クラスターは、交通の要地に発達し、一度形成されると長く存続することが多い。貨幣の円滑な供給は、企業のイノベーションにとって必要である。産業クラスター内部では、多様な知識や価値観が融合し、イノベーションが創出される。しかし、このような産業クラスターのイノベーションを資金的に支えているのは、金融クラスター内に立地する金融機関である。産業クラスターの立地は、技術革新にともなって、しばしば変動するが、金融クラスターの立地は、不変であることが多い。金融クラスターが機能することは、国内経済の維持・発展にとって不可欠である。金融クラスターは、工業などの実体経済の上に存立する。競争力をもつ実体経済の存在は、金融クラスターの形成につながる。実体経済の悪化、すなわち過剰生産（市場の縮小）が、産業クラスターを不況に陥れ、しばしば金融クラスターを危機に陥れる。金融クラスターの危機は、信用収縮を通じて実体経済の回復を遅らせ、景気は深刻な落ち込みをみせる。

アメリカにおいては、イギリスのマーチャント・バンクの流れをくむ投資銀行が独自の発展を遂げた。20世紀への転換期において、J.P.モルガン、クーン・ローブなどの投資銀行は、アメリカの鉄道業や、鉄鋼・電機産業の再編に大きな役割を担った。アメリカの銀行資本は、ニューヨークを中心に集積し、最初は、支配を目的とし、金融帝国をつくりあげた。しかし巨大企業の超過利潤は、銀行資本への依存を低下させた。

現代では、金融クラスターは、貨幣の供給・仲介者として、他の産業クラスターの活動を調整する役割を担っている。一般に、産業クラスターは、盛衰を繰り返すが、金融クラスターの立地は、変化することが少ない。大きな金融クラスターは、国際金融センターの役割を担っている。貨幣の供給者としての金融は、依然として、重要な役割を担っている。また、国における金融クラスターの立地は、同時に、その国の経済中心地であることが多い。国の産業構造は急

速に転換し、産業クラスターの盛衰も、急である。しかし、金融クラスターの役割は不変である。現代のアメリカの軍事力、科学技術を支えているのは、その経済力とこれを可能にする企業の活発なイノベーションである。これを支援しているのは、金融機関とその集積体である金融クラスターである。銀行資本は、かつては、産業を支配し、金融帝国を形成したが、近年、その役割は、低下している。しかし、金融クラスターは、企業にとって、インフラの役割を担う。アメリカの産業クラスターや、これに立脚する大企業を支えているのは、ニューヨークなどの金融クラスターである。金融クラスター内には、多様な情報が集中する。周辺地域から、新しい知識や価値観が流入し、新たな価値観が形成する場でもある。企業にとって、金融クラスターは、インフラの役割を担っている。国の中心的な金融クラスターには、国内外の資金と情報が集中している。

国のイノベーションを担う革新的なスタートアップ企業にとって、資金の確保は重要である。画期的なイノベーションは、しばしば、中小企業によって創出される。スタートアップ企業が、軌道に乗るまでに、多くの企業は、資金の枯渇によって、市場からの撤退を迫られる。こうした産業クラスターに対する資金供給を支えているのは、各地の金融クラスターである。アメリカ経済においては、ニューヨークが、金融クラスターとして機能し、世界中の資金と情報が集中し、国内に展開するクラスターへの資金供給を行ってきた。大企業の多くは、本社あるいは情報収集の拠点として、国の中心的な金融クラスターにおくことが多い。ここでは、世界の経済や企業についての情報が集中している。企業は、クラスター内に立地する本社が、広く情報を収集し、これを分析することによって、企業にとって、もっとも効率的な戦略を策定することになる。このように、国内の経済において、金融クラスターの存在は重要である。国の発展には、金融クラスターの安定化が必要となる。

．核としての証券取引所

現代のアメリカ経済の中心には、ニューヨーク証券取引所を核とするニューヨークが位置している。ニューヨーク市のマンハッタン地区には、ニューヨーク証券取引所が立地し、金融街であるウォール街が位置し、J.P.モルガン・チェースやシティ・グループ、さらには、モルガン・スタンレーやゴールドマン・サックスなどの投資銀行が本拠地をおいている⁽²⁸⁾。マンハッタン地区の建物の高層化は、金融・ビジネスの集中度を示している。ニューヨークは、国際連合の本部が置かれる国際都市でもある。

産業構造は、常に、転換する。現在のアメリカのイノベーションの中心は、ICT産業が集積するシリコンバレーであり、活発な技術革新によって、企業の資本蓄積が進展している。古い産業クラスターは衰退し、新しい産業クラスターが成長している。しかし、各地の産業クラスターのイノベーションを支えているのは、金融クラスターである。金融クラスターの多くは、大都市や交通の要地に位置し、国内外の広範な情報が集中する。金融クラスターの内部においては、歴史・伝統や名声が金融業者の競争力に役立つことがある。とりわけ、ニューヨークには、世界中のビジネス機会についての情報が集中している。ここでは、国内外の投資家の資金を引き付け、多くの多国籍企業が、重要な拠点を置いている。巨大な金融クラスターは、国際金融センターとして機能している。

このような金融クラスターの調整機能が、国内経済の維持に役立っている。アメリカの金融クラスター内で注目されるのは、投資銀行の存在である。アメリカの投資銀行はイギリスのマーチャント・バンクに起源をもち、アメリカで独自の発展を遂げた⁽²⁹⁾。投資銀行は、1860年代以降に、イギリスやドイツなどの大陸からの資金導入を仲介して成長した⁽³⁰⁾。

1901年には、J.P.モルガン商会が、カーネギー製鋼会社を買収し、U.S.スチールを設立した⁽³¹⁾。アメリカの投資銀行は、株式による組織的な資金調達を

行い、起業や M&A による大企業の再編に関わり、アメリカにおける急速な産業構造の転換に、大きな影響を及ぼしてきた。

投資銀行による巨額資金の組織的運用は、アメリカ大企業の再編に役立ってきた。国内の金融クラスターが機能することによって、国内経済の持続的発展が可能になる。企業のイノベーションのために必要な資金は、金融クラスターによって、供給される。アメリカ経済の持続的発展を支えているのは、ニューヨークを中心とする金融クラスターである。ニューヨークには、金融機関の集積がみられ、世界中の資金とビジネスの情報が集中している。同時に、企業の立地する産業クラスターは、国の各地に立地する大小の金融クラスターから利便を受けている。先進資本主義国には、歴史と伝統をもつ金融クラスターが立地することが多い。金融クラスターは、国における資金・情報インフラとしての役割を担う。企業の競争力の強化のためには、イノベーションが必要であり、イノベーションを活発化するためには、円滑な資金・供給が重要な役割を担う。ここで、大きな役割を担うのは、金融クラスターである。金融クラスター内の金融機関は、お互いにライバルであると同時に、共通の利益が見込める場合は、協調関係を結ぶことがある。投資銀行などのアメリカの巨大な金融機関には、あくまでも、自らの利益を目的として行動するのであるが、結果的に、アメリカの特色のある産業クラスター内のイノベーションを支援する役割を担っている。そして、その中核には、証券取引所が位置している。

・ むすび

アメリカにおいては、世界最大の金融クラスターであるニューヨークが立地する。アメリカでは、国内各地に、特色のある産業クラスターが存在するが、その軸として機能しているのは、ニューヨークである。その核は、ニューヨーク証券取引所であるが、周辺には、巨大な銀行資本が集積している。このような金融集積地は、一般に経済の中心に位置する。

アメリカで、今日、注目されている産業クラスターは、シリコンバレーである。しかし、アメリカにおける、ICT産業の発展のためには、国が、望ましいグローバル・プラットフォーム⁽³²⁾であることが必要である。アメリカ経済を活性化させる役割を担うのが、貨幣の仲介者としての金融機関の役割である。アメリカの工業のダイナミズムを支えているのは、投資銀行にみられる、金融のダイナミズムである。金融クラスターには、多くの金融機関が集積している。発達した資本主義国においては、国内の各地に競争力をもつ産業クラスターが存在するが、これを支えているのは、金融クラスターである。先進資本主義国では、通常、大小の金融クラスターが存在する。中でも中心的な金融クラスターは、国際金融センターとしての役割を担っていることが多い。金融機関は、規模だけではなく、歴史・伝統・名声といった尺度で評価されることが多い。

巨大な寡占企業も、証券取引所への上場、大手銀行との取引、情報収集のために金融クラスター内の金融機関との関わりを求める⁽³³⁾。企業は、国内の金融クラスターの内部に、本社または拠点を置くことによって、費用の節約や情報収集の利益を得ようとする。シリコンバレーのような、アメリカを代表する産業クラスターにおいてさえ、金融クラスターの恩恵を受けている。資金の不足に悩むスタートアップ企業や、経営危機に陥った企業を支えるのは、金融機関である。情報は、貨幣に代わることはできない。金融クラスターは、資金・情報インフラとしての役割を担うことが多い。金融クラスターのうち、大きなものは、国際的な金融センターとして機能し、世界中から、資金・情報が集中する。アメリカでは、ICTの革新とともに、産業構造の転換が急速であり、シリコンバレーが注目されている。しかし、これらの産業クラスターを支えてきたのは、ニューヨークを中心とする金融クラスターである。

金融クラスターは、大都市に形成され、国の中に分散する他の産業クラスターとイノベーションを支援する役割を担う。金融クラスターの多くは、長い歴史と伝統をもち、長く同じ土地にとどまることが多い。金融クラスターには、金融機関が集中して立地する。今日の世界経済の革新要因の大きな要素は、ICT

に関する分野から生じており、その中心は、アメリカのシリコンバレーやシアトルに存在する。しかし、情報が貨幣にとって代われる訳ではない。企業にとって、情報は手段であって、貨幣は目的である。情報が、企業にとっての目的となることはない⁽³⁴⁾。

近年は、中国の経済発展が著しいが、ここで重要な役割を担っているのは、上海・香港・深圳などの金融クラスターである。ある地域に、競争力をもつ産業クラスターが形成されると、他の地域のクラスターも影響を受けるようになる。こうして、各国において、国内各地に多様な産業クラスターが形成される。クラスター内に立地する企業や機関は、相互補完関係にある。この補完関係を通じて、企業は、費用・時間の節約、情報・人材の獲得・人的つながりやチャンスの獲得など、イノベーションを推進する要因となる。

国の産業クラスターが盛衰を繰り返し、国の中心的産業の立地がしばしば移動するのに対して、金融クラスターは、一度形成されると、長く、その場所にとどまることが多い。資本主義にとって、金融クラスターの果たす役割は重要であり、国内企業のイノベーションを活性化しようとするれば、その安定が必要となる。国内の実体経済の落ち込みは、金融危機を招き、クラスター内の金融機関の破綻が多発し、信用収縮によって、実体経済の不況が深刻化する。ICTの発展によって、情報の役割が増し、シリコンバレーなどのICT関連の産業クラスターが注目される。しかし、これらの産業クラスターを支えているのは、アメリカ国内の大小の金融クラスターある。

アメリカの金融クラスター内で注目すべきは、イギリスのマーチャント・バンクに起源をもつ投資銀行の存在である。アメリカの投資銀行であるJ.P.モルガン投資銀行は、アメリカ国内の産業を支配し、「モルガン帝国」をつくりあげた⁽³⁵⁾。アメリカ投資銀行の巨額資金の組織的運用による起業やM & Aによる企業再編をおこなってきた。これらが、アメリカにおける急速な産業構造の転換と高度化に役立ち、アメリカの大企業の強化に役立ってきた。かつてのアメリカの投資銀行は、産業の支配を目論んだ。

第二次世界大戦後、銀行資本の役割は低下している。グローバルに事業展開を行う巨大な多国籍企業は、その超過利潤によって、銀行資本への依存度を低下させた⁽³⁶⁾。しかし、大企業が、銀行資本の影響力を排除したとみるのは誤りである。金融クラスターは、依然として、経済体制の基軸として機能している。その影響力は、銀行資本の支配力は低下したが、資金供給と情報力によって、依然として、企業に大きな影響力を有している。ここでは、産業の支配というよりも、経済の基軸としての調整・管理機能を担うとみる方が適切である。また、繰り返し、訪れる世界的な経済不況の中で、企業が、破綻に面するとき、銀行資本は、その支配的影響力を行使する。

このように、金融クラスターは、その影響力を低下させながらも、常に、国内産業の中心として、産業の調整・管理の役割を担おうとしている。このように、国の競争力の強化を図るのであれば、国内の特色のある産業クラスターにおけるイノベーションを支える金融クラスターの役割に、再び着目する必要があると思われるのである。そして、金融クラスターの中核には、証券取引所が位置しているが、その役割については、今後の課題としたい。

注

- (1) J.K.ガルブレイス、小原敬士訳『大恐慌』徳間書店、1971年、171-172頁。
- (2) ニューヨークの起源は、1614年、オランダ人がマンハッタン島の南端に毛皮貿易の拠点として入植したのが始まりである。ニューヨークは、貿易港として発展した。1664年、第二次英蘭戦争の結果、ニューアムステルダムは、イギリスに割譲され、ニューヨークと改称された。ニューヨークは、イギリスの植民地時代に、貿易港として発展した。1792年には、ニューヨーク証券取引所の起源が形成された。以後、ニューヨークには、マンハッタン島のウォール街を中心に、投資銀行などが集積し、アメリカの金融中心地として発展した。ニューヨークは、アメリカの巨大な金融機関の集中する都市であり、世界中から資金・情報が集中する。また、多くの大企業が拠点を置き、アメリカ経済の中核として機能しているが、最大の役割は、国際金融センターとしての機能である。
- (3) ジャック・ネレ、岩田文夫訳『1929年の恐慌 - 第一次世界大戦後の通貨・経済秩序崩壊からナチス・ドイツの閉鎖経済まで -』現代図書、2014年、90-91頁。
- (4) 岩田規久男『世界同時不況』筑摩書房、2009年、7頁。

- (5) 現代の資本主義において、金融機関の役割は依然として重要である。企業の経営危機に際して、金融機関が、役員を送り込み、融資先の監視（モニタリング）を行い、その経営に介入することは、しばしばみられるところである。また、金融機関は、その性格上、企業群の中心に位置することが多い。企業の存立に不可欠な貨幣の仲介・供給の役割を担い、関連する企業に対する情報が集中している。
- (6) R.ヒルファーディングは、20世紀初頭の世界の資本主義の状況を、銀行資本による産業資本（工業）の支配という図式によって示した。R.ヒルファーディング、岡崎次郎訳『金融資本論（下）』岩波書店、1982年、111-112頁。他方、レーニンは、金融資本を、銀行資本と独占資本の融合体として、これを継承した。レーニン、宇高基輔訳『帝国主義』岩波書店、1956年、78頁。しかし、独占的大企業の発展と、内部蓄積によって、産業資本の銀行資本への依存は低下した。20世紀への転換期と比較して、銀行資本の役割は低下している。P.スウィージーは、独占利潤によって内部蓄積を増大させた独占資本の銀行資本に対する優位を指摘した。P.バラン、P.スウィージー、小原敏士訳『独占資本』岩波書店、1967年、23-24頁。
- (7) M.E.ポーターは、最初、価値連鎖の概念など、企業内の要因を重視した。M.E.ポーター、土岐坤・中辻萬治・小野寺武夫訳『競争優位の戦略 - いかにより業績を持続させるか - 』ダイヤモンド社、1985年、48-51頁。後に、ポーターは、企業の競争力の源泉を、企業の外部要因、とりわけ立地に求め、その立地が企業のイノベーションに大きな影響を及ぼすとした。産業クラスター論では、ダイヤモンドの中心は、関連・支援産業である。ダイヤモンド理論においては、要素条件、需要条件、関連・支援産業、企業の戦略・組織・ライバル競争の4要因と、チャンス、政府の役割という2つの補足要因によって、クラスター内部が自己強化することによって、国は競争優位を実現する。ポーターにとって、クラスターとは、ダイヤモンドの4要素が機能し、自己強化によって、企業の競争力の源泉が創造される場所である。M.E.ポーター、土岐坤・中辻萬治・小野寺武夫・戸成富美子訳『国の競争優位（上）』ダイヤモンド社、1992年、212頁。クラスター内では、費用・時間が節約され、必要な情報の獲得が可能となり、こうして、企業は、クラスターの内部で、製品・サービスの差別化を実現することが可能となる。
- (8) A.マーシャルは、「特定産業の特定地域への集中」のもたらす利点を強調した。A.マーシャル、馬場啓之助訳『経済学原理』東洋経済新報社、1966年、250-263頁。マーシャルは、特定産業が、特定地域に集中することによって、情報の獲得や人的資源の確保、企業活動の費用の低下など、さまざまなメリットがあり、企業の発展を容易にする条件をつくりだすことを指摘した。
- (9) 大塚久雄は、「われわれは株式会社発生の実体的基礎、いわばその母体の何たるかを追求し、これを特殊なマグナ・ソキエタスすなわち先駆会社形態に求め、これが『全社員の有限責任制』を獲得することによって株式会社に転形すること、かくして株式会社は、『会社形態における集中』の最高の段階として発生したものであることを明らかにした」とした。大塚久雄『著作集第一巻 株式会社発生史論』岩波書店、1969年、144頁。株式会社の最大の特徴を、すべての出資者（株主）の有限責任制とし、アムステルダム証券取引所について、「オランダ東インド会社の設立後まもなくその『持分』ないし『株式』がアムステルダム取引所において盛んに流通するに至り、投機を、とくに先物の投機をさえ

惹きおこすに至った」ことを指摘している。同上書、143頁。

- (10) アメリカ企業の競争力の一つは、その社会構造である。このことが、その活発なイノベーションを生み出す大きな要因であった。現代のグローバリゼーションと世界の市場経済（資本主義）化が進展した時代にあつては、封建的性格が解体し、市民の自由な経済活動の権利の擁護の基づく社会構造の保障、すなわち、民主主義が尊重される社会が大きな役割を担う。その背景は、南北戦争による徹底的な市民革命にある。鈴木圭介『アメリカ経済史の基本問題』岩波書店、1979年、324頁。
- (11) 銀行貸付は、目的のための手段を持つ者に資金を用立てる。J.A.シュンペーター、清成忠男編訳『企業家とは何か』東洋経済新報社、1998年、72頁。
- (12) ロンドンは、12世紀以降、北海貿易における木材・海産物・穀物・毛皮などの交易の一大中継都市として栄え、17世紀後半以降は、新航路貿易の中継地として、大きな役割を担った。ロンドンでは、銀行の他にロイドなどの保険業が発達した。イギリスでは、商人が金融業者を兼営するマーチャント・バンクが、イギリス経済の中で重要な役割を担ってきた。湯沢威編『イギリス経済史 - 盛衰のプロセス -』有斐閣、1996年、128頁。
- (13) 小林袈裟治『インターナショナル・ハーバスター』東洋経済新報社、1978年、108-111頁。
- (14) T.S.アシュトン、中川敬一郎訳『産業革命』岩波書店、1973年、3頁。
- (15) M.E.ポーター、竹内弘高訳『競争戦略論』ダイヤモンド社、1999年、68頁。
- (16) 19世紀後半以降は、ピッツバーグ（鉄鋼）やデトロイト（自動車）などの産業クラスターが形成された。アメリカのクラスターは、シリコンバレー（ICT）、シアトル（ICT・航空）などへ移動し、産業構造の転換とともに、産業クラスターの盛衰がみられる。建国直後のアメリカの基幹産業は、北東部の繊維であった。アメリカの工業は、植民地時代の北東部のニューイングランドのボストンなどに、日用品の生産などから開始された。19世紀半ばには、急速に拡大する国内市場に対応するために、マシンや収穫機、小火器製造において、部品の互換が行われるようになり、20世紀初頭には、フォードが大量生産の創始者として登場した。R.パチェラー、楠井敏朗・大橋陽訳『フォードイズム - 大量生産と20世紀の産業・文化 -』日本経済評論社、1998年、15頁。
- (17) 萩原伸次郎『新自由主義と金融覇権 - 現代アメリカ経済政策史 -』大月書店、2016年、5頁。
- (18) 1980年代には、シリコンバレーが、急速に新たな産業クラスターとして成長した。シリコンバレーは、ICT産業の中心的クラスターとして、イノベーションを生み出す好循環を繰り返している。先進国においては、発展途上国より深く、幅のあるクラスターが形成される。アメリカにおいては、GAFAなどの巨大企業が、社会インフラの役割を担うプラットフォームとして、巨額の利益を本国本社に集中している。今日、イノベーションが最も活発なのは、ICT産業であり、プラットフォームは、インターネットを活用したビジネスモデルを構築することによって、顧客の情報を収集し、活用することによって、巨額の利益を蓄積している。シリコンバレーには、グーグル、フェイスブック、アップルが立地している。シリコンバレー内部には、スタンフォード大学が立地しており、旺盛な企業家精神をもつ人材をICT産業に供給してきた。シリコンバレー内に立地する企業は、ネットワークに基づくシステムによって、競争力を維持している。アナリー・サク

- セニアン、山形浩生・柏木亮二訳『現代の二都物語 - なぜシリコンバレーは復活し、ポスト
トロンルート 128 は沈んだか -』日経 BP 社、188 頁。
- (19) 1971 年のインテルによる 4 ビットの MPU の発明を契機にコンピュータのダウンサイ
ジングが進展した。夏目啓二『現代アメリカ企業の経営戦略』ミネルヴァ書房、1994 年、
89 頁。
- (20) ビル・ゲイツ、大原進訳『思考スピードの経営 - デジタル経営教本 -』日本経済新聞社、
1999 年、4 頁。
- (21) A.D.チャンドラー、Jr.、鳥羽欽一郎・小林袈裟治訳『経営者の時代 - アメリカ産業に
おける近代企業の成立 -』東洋経済新報社、1979 年、48 頁。
- (22) 同上訳書、1979 年、49 頁。
- (23) 世界には多くの金融機関の集積地である金融クラスターが存在する。代表的なものは、
先進国の大都市に立地する。これらは、貿易港など交通の要衝から発展した歴史をもつ都
市が多く、金融機関が集積している。ニューヨーク、ロンドン、東京、上海、パリ、フ
ランクフルトなどである。これらは、国内外の情報の集中する場所であった。金融クラスター
の多くは、国際交通の要衝であって、古くからの交易で栄えた地域が多い。
- (24) ドイツのフランクフルトでは、1240 年以降、見本市が開催され、商人に集まり、フ
ランクフルト証券取引所が設立され、ドイツ最大の金融クラスターとなった。
- (25) イギリスのロンドン、中国の上海、日本の東京などが、代表的な証券取引所である。こ
れらは、長い歴史をもち、巨大な多国籍企業の本拠地が置かれる都市でもある。
- (26) 楠井敏朗『法人資本主義の成立 - 20 世紀アメリカ資本主義分析序説 -』日本経済評論
社、1994 年、141 頁。
- (27) 楠井敏朗『アメリカ資本主義とニューディール』日本経済評論社、2005 年、86 頁。
- (28) 1990 年代末以降、アメリカにおける金融再編が進展し、2000 年には、ニューヨークに本
拠地をおく J.P.モルガンとチェースバンクとの合併がみられた。夏目啓二『アメリカの
企業社会 - グローバリゼーションと IT 革命の時代 -』八千代出版、2004 年、65-66 頁。
- (29) ロンドンには、マーチャント・バンクと呼ばれる金融業者が存在した。19 世紀のイギ
リス経済において、ロンドン証券取引所とマーチャント・バンクと金融クラスターである
シティ街が、大きな役割を担った。ここでは、18 世紀以降には、ロスチャイルド家など
が活躍した。
- (30) 1850 年代には、鉄道建設の資金調達のために、専門の投資銀行が出現した。A.D.チャ
ンドラー、Jr.、丸山恵也訳『アメリカ経営史』亜紀書房、1986 年、46 頁。
- (31) ブラッドフォードノカー、川辺信雄監訳『アメリカ経営史』ミネルヴァ書房、1988 年、
140 頁。
- (32) M.E.ポーター編著、土岐坤・中辻萬治・小野寺武夫訳『グローバル企業の競争戦略』
ダイヤモンド社、1989 年、49 頁。
- (33) 多国籍企業の総合本社は、世界の主要都市に集中されている。S.ハイマー、宮崎義一編
訳『多国籍企業論』岩波書店、1979 年、280 頁。
- (34) 「コンピュータというのは、せいぜい特定の問題の解決に手を貸す道具でしかない、と
いう事実をしっかりと心に留めておくべきだ。...コンピュータは決して魔法の万能薬ではな
い」ビル・ゲイツ、西和彦訳『ビル・ゲイツ未来を語る』アスキー出版局、1995 年、227

頁。

(35) 楠井敏朗『アメリカ資本主義と民主主義』多賀出版、1986年、295頁。

(36) バラン=スィージーは、もはや巨大な金融機関も大資本家一族（ロックフェラー、メロン、フォード、モルガンおよびデュボン）も会社経営に決定的な力をもつものではないと結論するに至っている。フィッチ/オッペンハイマー、岩田巖雄/高橋昭三監訳『だれが会社を支配するか - 金融資本と「経営者支配」 - 』ミネルヴァ書房、1978年、23頁。